

# ボランティア・ニュース第7号 2007.1.31 発行

## ボランティアの皆さま あけましておめでとうございます

北大博物館ボランティアの会 会長 在田 一則

時間は、人間の意志に関わりなく、坦々と進んで行くようですね。

遅ればせながら、新年のご挨拶を申し上げます。今年もよろしく願いいたします。

一昨年は「シベリア・マンモス展」、そして昨年は「モンゴルの恐竜展」と大きな企画がありました。今年にはさらに大きな「フェアブル展」が7月1日～9月17日の約2ヶ月半にわたって予定されています。

私は昆虫少年ではなかったですが、それでも小学校の頃は円山公園の水辺でギンヤンマを捕まえたり、カエルのお腹を膨らませたりした記憶があります。高校の頃はフェアブル昆虫記をごく一部ですが、読みました。シートン動物記の1冊は今も書棚のどこかにあるはず。しかし、生物系は何となく肌に合わず、高校では地学をとり、それが生業になりました。

地学の教えるところによると、約46億年の地球の歴史のなかで、約40億年前の初期地球環境のもとで生まれた生物が進化し、発散してきた一方、生物活動により地球環境は大きく変化してきました。その環境変化により、生物進化がさらに促進され、我々人類の出現に至っています。そして今日、人類活動による地球環境の悪化（人類にとっての悪化）が懸念されています。

しかし、地学的感覚では（過去の地球の歴史を敷衍すれば）、我々人間も生物種のひとつですから、人類の活動が地球環境に大きな変化をもたらすというのは当然といえば当然です。しかし、人類の一人としては、そう太平楽なことを云ってもおられず、少なくとも我々の子孫が、現在我々が享受している自然（地球）環境を享受できる権利を尊重したいものです。

「フェアブル展」がそのような自然を保証する生

物多様性 (biodiversity) の保全の重要性と昆虫の不思議を多くの市民の方々に改めて知っていただく機会になればと思います。

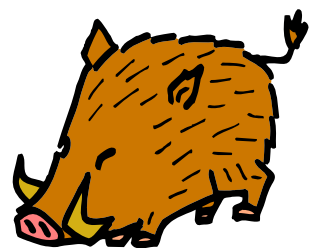
なお、最近では、生物に限らず、生物の生存の場である地球表層部の多様性も重要であるという意味で、地圏多様性（ジオダイバーシティ：geodiversity）という言葉もあります。

「フェアブル展」は北大総合博物館以外にも国立科学博物館をはじめ全国の4つの博物館（いのちのたび博物館・北九州、兵庫県立人と自然の博物館・淡路、琵琶湖博物館・草津、2009年以降はフランス国立博物館）で順次開催されるということですので、大きな反響を呼ぶことでしょう。こうした大きな企画とともに北大総合博物館の存在は多くの市民の皆さんに、また全国にますます知られることと思います。

多くの来館者に博物館に満足していただくためには、展示内容はもちろんのこと、その解説も重要です。ボランティアの展示解説グループの充実が望まれます。

幸い、昨年11月に博物館学がご専門の湯浅万紀子助教授が赴任されました。ボランティアの担当もされると伺っていますので、今年は展示解説グループの充実の年としたいものです。他のグループのボランティアの皆さんもそれぞれの得意の分野の案内や解説にご協力をお願いいたします。

ところで、「フェアブル展」に先立つ6月7日～10日には北大大学祭があります。1年でもっとも市民が学内を訪れる時ですので、これを利用して市民の皆さんに博物館とボランティアの会を宣伝することを計画しています。これから事務局で具体案を考えたいと思います。ボランティアの皆さんのご協力を是非お願いします。



## シリーズ 博物館の展示

### 3 階展示その 1

エレベーター前にある豊羽鉍山(定山溪)産の鉍石は、地表下約 500m、坑内温度 60℃(岩盤温度 130℃の高温)の場所から採掘されたもので、多量の銅、亜鉛や鉛を含むものである。あまりの坑内温度の高さで、熱中症などで事故が起りやすい環境になっている。鉍石は未だ沢山残っているものの、採掘条件が悪くなり経費がかかり過ぎることや危険度も高くなったため、残念ながら今年(平成 18 年) 3 月に採掘活動を止め閉山した。ここで取れる鉍石中には世界最高の含有量を誇るインジウムが含まれ、それは主に縞状を呈する閃亜鉛鉍中に濃集している。インジウムは半導体および携帯や液晶のディスプレイに不可欠の元素で(マントルにあるイリジウムとは異なる元素)、今や近代文明に欠かせないものだといえる。

骨格標本は獣医学部に置いてあったもので、博物館における展示は主として獣医学部の学生たちによって準備作業がなされ、公開に踏み切られたものである。展示されている哺乳類の骨格を見ると、脊椎動物の進化の歴史を辿ることができる。

廊下に展示されている鹿児島産の菱刈鉍山産の金鉍石は、1t の石英脈からなる鉍石中に平均 80g に達する高濃度の金が含まれている(金 1g はマッチ棒の先の量)。日本で 10 本の指に入る金の採掘量を誇る千歳鉍山は、既に採掘を終え閉山しているが、そこから採取された金鉍石も廊下の展示ケース内に展示されている。同じくケース内にある直径約 50cm の平たく大きな縞状石英を主体とする鉍石は、約 100 万年前に生成した支笏湖のすぐ北にある光竜鉍山(恵庭市)から採取されたものである。この金山も豊羽鉍山と同様に今年の 3 月に閉山したが、来年には坑道の中でワインレストランの開店が予定されている。2005 年の金相場は 1g で 1500 円程度であったが、2006 年上半期では 1g で 2500 円まで急上昇し空前の金ブームが起こっている。金は延性・展性に富み、1g の金が約 2,000m も伸びる。そのため極めて細い線にできる上、錆びにくく電気伝導性も抜群である。従って、金はハイテク材料の小型化に著しく貢献したが、特に携



帯電話やノートパソコンなどはこの元素無しには有り得なかったといえる。金は柔いので、利用目的によっては固くするために銅やニッケルを混ぜたりすることもある。

「アイランドアーク」学術資料展示室は、1999 年に文部省の概算要求を行う際に、モデル展示室として準備、スタートした。予算の少ない中で、かなりの部分が主に当時の地球惑星科学教室の教官による手作りの展示で、短期間(およそ 3 ヶ月くらい)で完成させたものである。「アイランドアーク」の展示室内にある展示ケースの棚の中には、代表的な鉍物(北海道産新鉍物を含む)や種々の岩石・鉍石・石油石炭などが展示されている。

鉍物は地殻を構成する天然産の物質で、均質な化学組成と一定の結晶構造を有し、肉眼で識別できる(顕微鏡の解像度である 1 ミクロン(1/1000 mm)以上)サイズを有するものである。これまで世界で発見・記載された鉍物は約 4000 種に上る。天然で確認された鉍物のうちで一番大きいのは水晶(石英)で、ウラル山脈で見つかった 1m×2m 程度のものだと言われているが、最近コロンビアで長さ約 10m のエメラルド結晶が見つかったとも言われている。ところで、展示室入り口にある積丹半島産とされる水晶は、もしかすると島根県益田市のペグマタイト産(現在も採掘中)のものかも知れない。この展示室内には、岩石鉍物のみならず、大型動物(哺乳類、爬虫類、恐竜など)の化石も展示されている。北大の長尾巧教授のグループは、サハリンで中新世中期にだけ北太平洋沿岸に生息した大型の水棲哺乳類のデスマスチルスを発見した。また同教授は、1936 年に世界最初の発見であるニッポノサウルス(日本竜)のほぼ完全骨格を掘り出した。(展示標本はレプリカ)。また同じく展示されているマチカネワニ(レプリカ)は、大阪大学理学部構内(待兼山)を造成中に発見された巨大ワニの化石である。(次回につづく)



講習は松枝先生が担当し、文章にしたのは星野・小俣です。

## 私がボランティアをしていた頃

塚本 精蔵

私が展示会説に応募したのは修士1年の夏でした。博物館のHPを見て応募したわけですが、実際に行ってみると展示解説専任で応募したのは私一人。史上初の北大総合博物館展示解説ボランティア、と相成りました。当時の博物館はまだ3階の展示スペースがオープンしたばかりで、お客さんも今ほど多くはありませんでした。

そんな中手探りで展示解説を始めたわけですが、これがなかなか大変でした。受付の方々と協力して、お客様からの質問にお答えするために、インターネットや資料を使って色々調べました。

それらのものを体系的に整理出来れば良かったのですが、結局私のいた1年半の間には、それだけのことはできませんでした。今、私がここでボ

ランティアをしていた証といえば、ボランティア室の入り口の表札とチラシくらいでしょうか・・・

それでも私にとってボランティアは忘れがたい思い出です。お客様からの質問に答えるためにいろいろ調べたことや、何とかして独自の企画を打ち出そうとしていたことなどは、良い思い出であるとともに、今の私にとってプラスになっていると思います。個々のボランティアの知識と経験の蓄積で、博物館が更に魅力的になっていくことを祈念しています。

(塚本さんは現在名古屋に就職し、活躍しています。モンゴル恐竜展のときに博物館に来館されました。)

## 一期一会ー チェンバロ演奏をして思うことー

受付・展示解説 小西

受付の仕事の合間に、ポプラチェンバロを弾かせていただいております。楽器の説明と作成由来などは一階の展示にありますので、ここでは弾き手としての個人的な感想を書くことにします。

演奏をしていて何より楽しいのはお客さんとの出会いです。コンサートの時間を知って、その時間に待っていて下さる方もいて大変うれしく思います。先日、札幌駅で「あ！博物館の人だ！チェンバロの！」と地方からきたという女性二人に声をかけられびっくりしました。こちらにとっては明日もある演奏ですが、お客さんにとってはたった一度の来館かもしれない・・・。いつかまた来

たいと言ったお客さんの言葉に、恐竜の化石達と同じくらい心に残ってもらえる演奏をしたいと思います。台風によって倒れたポプラが、人々の心のふれあいとなって、これからずーと博物館の人気者となることを願って。

演奏曲目やコンサートのアイデアなどありましたらぜひ受付へアドバイスをよろしく御願致します。また、「都ぞ弥生」の楽譜をもっている方、いらっしゃいましたら、ご一報下さい。

## レイチェル・カーソン展について

北海道大学総合博物館で2007年7月1日(日)～9月17日(月)に掛けて「レイチェル・カーソン生誕100年記念パネル展」が開催されます。この期間は同時に「フアール昆虫展」も開催されます。レイチェル女史は農薬による環境汚染にいち早く警鐘を鳴らし「沈黙の春 Silent Spring」、自然の神秘さや不思議さへの感性の大切さを伝えた「センス・オブ・ワンダー」など優れた著作を残してくれました。この記念展は北海道大学総合博物館・レイチェル・カーソン日本協会の二者共催で行われます。期間中は特別記念講演が三回開催されます。この2か月半の期間中は両展(フアール・レイチェル)の展示解説などで多くの北大博物館ボランティアの皆さんの活躍場が計画されると思います。札幌側の事務局は「レイチェル・カーソン生誕100年記念・北海道の会(連絡責任者近藤務)」です。(文責 沼田)

拝啓  
秋も深くなって参りましたが皆さまにはお変わりなくお過ごしのことと思えます。こちらも学生一同元気に生活しておりますので、ご安心下さい。さて、先日は博物館を見学させていただいた上に、色々な資料も下さりありがとうございました。  
この資料を使い、色々な人に恐竜やマンモスが絶滅した原因を知ってもらいたいです。  
今、地球上で絶滅の危機にある動物をもっとしり、人間が森の木々を切り倒して、耕地を増やしているということ。そして、海や川の水を汚してどんどん動物の暮らすところをうばっているなかで、マンモスの再生をしようとしている学者を誇りに思っているなかで、そして私たち3人の願いは、自分たちのなすべきことを理解して欲しいとおもいます。  
お礼まで。お健康を心よりお祈り申し上げます。まずはとりあえず  
寺西様  
十月十六日 代表 氏家 由希子  
敬具

## 第7 回談話会のお知らせ

今年の談話会は「雑草学」から幕開けします。お話しする人は事務局の持田 誠さん。昨年度までは大学院生として、植物標本のリーダーで活躍していたので、ご存じの方も多いのでは。詳しくは後日案内致します。

日時:平成19年2月27日(火) 17:00～

場所:ボランティア室(N302)  
演題:雑草と呼ばれる植物の話  
お話しする人:持田 誠(ボランティアの会事務局)



## 10月～12月の活動報告

- 「化石」では、中野さん、寺西さん、安田さん、石橋さん、細川さん、江越さんがクリーニングや化石整理をしました。
- 「展示解説」では星野さん、中野さん、寺西さん、永山さんが小中学生を中心に、来館者に解説をしました。
- 鉱物グループでは岡田さん、佐々木さん、寺西さん、安田さん、鳥本さんが誕生石展や展示替え等に奮闘しました。
- 昆虫グループではフェアブル関係の昆虫整理を中心に久万田元会長、青山さん、宮さん、永山さん、稲荷さん、広永さん、松本さん、喜多尾さん、小原さん、櫛引さん、長尾さん、須長さん、梅田さん、宮本さんが標本作りに奮闘しました。  
(お名前は順不同です)

2007 年度ボランティアの登録の御願い

2月13日～2月28日まで、新年度ボランティアの登録を行います。

継続の有無・連絡先・所属グループ(複数可)をメール・電話・FAXなどで事務局(在田・持田・望月・永山)に連絡ください。

詳しくはメールで2月10日頃ご連絡致します。

企画展のお知らせ

- 北大職員写真同好会第8回写真展  
「札幌 NaturArt」  
19/1/30～2/12
- 誕生石展  
18/4/1～19/3/31
- 北大千島研究の系譜  
—千島列島の過去・現在・未来  
19/2/20～5/6



ボランティア・ニュース

- ◆編集・発行  
北海道大学総合博物館ボランティアの会  
(担当者:星野、沼田、永山)
- ◆発行日:2007年1月
- ◆連絡先  
060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

ボランティアニュースは下記の北大総合博物館ホームページからもご覧になれます。  
<http://www.museum.hokudai.ac.jp>

